第 31 回 放送番組審議会議事録

2022 年 10 月

株式会社シーエス・ワンテン
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日　2022 年 9 月

2. 開 催 場 所　書面開催

3. 委員の参加
委員総数　8 名　参加　8 名
出席委員の氏名

委員長	池井　優	（慶応義塾大学 名誉教授）
委　員	黒鉄　ヒロシ	（漫画家）
委　員	高木　美也子	（東京通信大学 人間福祉学部教授）
委　員	戸張　捷	（株式会社ランダムアソシエイツ 代表取締役）
委　員	藤田　興彦	（児童育成協会 参事）
委　員	前田　純弘	（昭和女子大学現代ビジネス研究所 特別研究員）
委　員	元村　直樹	（明治大学法学部兼任講師）
委　員	四本　裕子	（東京大学大学院 総合文化研究科教授）

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長	福田　泉
業務推進本部長	渡辺　慎一

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局次長兼総合編成部長	奥川　晃弘
コンテンツ編成局総合編成部サテライトメディア担当部長	吉川　大祐
コンテンツ編成局総合編成部	檜谷　彰
コンテンツ編成局総合編成部	新谷　拓也
スポーツ局スポーツ 1 部	瀧川　恵
スポーツ局スポーツ 1 部	長畑　洋太
ビジネスプロデュース局 CS 事業部長	松久　智治
ビジネスプロデュース局 CS 事業部 CS 編成担当部長	中口　裕丈

4. 議　題
「テレ朝チャンネル 1」、「テレ朝チャンネル 2」の番組について

◆テレ朝チャンネル 1 番組審議
『生放送だよ！アイドルお宝くじ』

＜番組概要・企画意図＞

2014年10月から2017年9月まで地上波とBS、CSで放送していた「アイドルお宝くじ」は、ライブハウスやホールのステージを中心に活動する、いわゆるライブアイドルと呼ばれるアイドルグループ 5 組がパフォーマンスする公開収録番組で、スタジオに集まったアイドルファン約 150 名がアイドルのパフォーマンス後に投票、次週は上位 3 組が続けて出演、新しく 2 組が加わるというバトル形式のアイドル番組でした。

日頃から目指している、CS というメディアに向いた、コアファンを意識したコンテンツ作りのひとつとして、今回は、キラキラした王道アイドルや、いわゆるアイドルソングとは異なるロックテイストな楽曲のグループ、グラビアを中心に活動しているグループなど、個性が際立つ 8 組のライブアイドルが出演、生放送という初めての試みで 4 年半ぶりに番組を復活させました。この番組は、投票をすぐに集計して結果発表することも特徴であるため、コロナ禍でスタジオへの観客入れが制限されている中では、収録ではなく生放送の視聴者投票が最善策と判断し、画面に表示するQRコードを読み込んだ先の投票フォームで審査いただきました。

4 組ずつ 2 ブロックに分かれた予選で争い、各ブロック 1 位が決勝に進むトーナメントでしたが、優勝したのは、ももいろクローバーZ や私立恵比寿中学などと同じ、スターダストプロモーション所属の「CROWN POP」クラウンポップという正統派 5 人組。ダンスが得意なメンバーによる踊りのキレはもちろん、歌唱力も高く、本番前のリハーサル時点ですでに頭ひとつ抜けている印象でした。優勝特典であるグループ冠特番も制作、5 月 25 日(水)に「CROWN POP のクラウンポップ！ステップ！ジャンプ！」を放送いたしました。

＜委員意見＞

〇この企画の実行が大変であったろうことは想像がつく。
〇今や学校教育にダンスが入り昔とは比較にはならないだろうが、唄って踊る体力と表現力につくづく日本人の変化を感じさせられた。
〇アイドルのパフォーマンスを視聴者がスマホで生審査するという面白い取り組み。
〇QRコードで投票できるので、長時間でもワクワクしながら視聴できたのではないか。
〇コアなファンの興味をくすぐるというCSの王道と感じられる番組。
〇進行役はスポーツアナのように時に大声で盛り上げようとしていたが、観客がいない状況でやや空回りの感があった。

＜番組担当者から＞

番組のご視聴、また貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

概ね好評いただいたご指摘としては、生放送に取り組んだが故のリアルタイムな視聴者投票でした。これまで他局やネットサービス等でも、この番組のように特典をかけた女性アイドルグループの番組は存在しておりますが、この番組はそれらとは差別化を計り、今その瞬間のパフォーマンスを審査するという点を重視して、視聴者投票のみで進行いたしました。ただし、視聴者以外にも審査員を取り入れてもよかったのではないか、というご意見もいただきましたので、今後は審査の透明性や番組の権威に関わる要素につきましては、より慎重に検討してまいります。

また、楽曲のクリエイターなどアイドルシーンのバックグラウンドにも斬りこむ、アイドルオタク受けするような番組もあってもよいのではないかというご意見もいただきました。今回の番組で取り入れるとすれば、各グループの紹介 VTR をもっと深くほり下げるなど、グループの特徴をしっかり伝えることで、視聴者の感情移入を促し、結果発表シーンで手に汗を握るような展

開に昇華させていきたいと思います。

委員の皆様から頂戴した貴重なご意見を、今後の番組企画・制作・編成の参考にさせていただきます。

◆テレ朝チャンネル２番組審議

『氷上のプレイリスト ～これが私のフィギュアスケート観～ #5 Selector 友野一希編』

＜番組概要・企画意図＞

音楽愛好者が自分のお気に入りの曲をリスト化して連続再生を楽しむように、各回のゲスト（セレクター）が自ら設定したテーマに基づき、フィギュア歴代のプログラムから演技を厳選。「氷上のプレイリスト」（＝お気に入りプログラム集）を作成します。

自らの競技観が投影された演技の数々を、厳選した理由と共に紹介。セレクターの感性を存分に感じられるフィギュアスケート番組です。

第 5 回は、番組初の現役スケーター、友野一希選手がセレクターとして登場。テーマを「ルーツ」とし、現役選手ならではの視点で、自身が影響を受けてきた名プログラムを紹介しました。演技はすべて会場音のみのノーカット放送。その前後に選評が盛り込まれます。点数や順位にとらわれず、演技を見返す“新たな視点”を提供しました。

放送後、プログラムの魅力だけではなく、友野一希選手のフィギュアスケートへ向き合う姿勢、人間性などに共感する声が多くありました。

＜委員意見＞

〇見どころやツボをスケーターが選んで解説するところは他の言とは一味違って新鮮。
〇友野一希選手の人間性が良く分かり、他の選手へのリスペクトが感じられた。
〇友野さんのキャラクターの良さと言語化能力にびっくりした。
〇日本のフィギュア界にとっても良いプロモーションになる。
〇フィギュアスケートに力を注いでいるテレビ朝日ならではの番組。
〇会場の音声のみの映像を見て、中継の音声を聴きながらでは見えていないものがあった。
〇他の選手からのアドバイスが自分の演技にどう影響したかや、他の選手の演技をどう分析しているのかなど、選手の目線を知ることができる内容がよかった。

＜番組担当者から＞

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

フィギュアスケートは、選手がシーズン毎にプログラムを変えることが多いため、過去のプログラムをもう一度見たいと思うファンも多くいます。そんな機会を作るためにも、過去の名プログラムと言われる演技を、セレクターならではの目線でたっぷりお見せできるのは、15 年以上グランプリシリーズ／ファイナルを中継してきた私たちだからこそできる番組と自負しています。

また、セレクターを務めるスケーターが競技にかける想い、他のスケーターとの関係性や知らざるエピソードを語るきっかけにもなり、これまで取材では明かされなかった一面を見られるのもこの番組の面白さにつながっていると考えています。友野一希選手は、セレクターとして初めて現役選手の起用となりましたが、彼がジュニア時代にどんなスケーターから影響を受け、どのように変化し、成長を遂げているかが分かるプレイリストとなりました。友野選手が発する独特の言葉、表現力の高さにご注目いただいた委員の方も多く、彼のキャラクターと共

に興味を持って番組を見ていただけたことを大変嬉しく思います。
　今回いただいたご意見は、今後の番組制作において、魅力的なセレクターの選定、演出方法にも反映させていきたいと思います。この度は貴重なご意見を頂きありがとうございました。

　この度は貴重なご意見を頂きありがとうございました。
　当社では長くフィギュアスケートを中継させていただいていますが、アーカイブにはまさにお宝と呼べるファン垂涎の素材が無数に存在します。その宝の山を生かしてファンに届ける方法はないものか、と考えて至ったのが、スケーター自身が演技の選者となり、ラインナップを組むこの企画です。スケーター自身が自らの演技を選ぶことにより、演技においては何を重視しているのか、どんなこだわりがあるのかなど、その選手をより深く描くことができると考えています。当然選手によって選び方など千差万別ですが、それもまたスケーターを描く上で多様性を表していると思います。
　今回、友野選手については、芸術性など本来言葉では言い表しにくい部分を選手本人の説明を活かしながらわかりやすく演出することに注力しました。選手はどなたも同様ですが、日々の練習における血の滲むような努力と、その結果として大会の演技があるので、その過程や人となりが伝わるように心がけています。
　新たなスターが次々と誕生することが期待される中、頂いた意見を参考に、今後も様々な企画にチャレンジしていきます。

5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日
　今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた 2022 年 9 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日
　2022 年 10 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

7. その他の参考事項
　次回の放送番組審議会は 2023 年 3 月に開催予定。

以上